

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成22年度 第7回 川西市社会教育委員の会		
事務局 (担当課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開催日時	平成23年1月20日(木) 13時00分～14時55分		
開催場所	川西市役所 2階 202会議室		
出席者	委員	生田議長、佐道副議長、小柳委員、安藤委員 岡田委員、田中委員、廣末委員、池田委員 計8名	
	その他		
	事務局	牛尾教育振興部長、小田中央公民館主幹、 小倉青少年支援課長、片山主任、下邨主事 計5名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/>	傍聴者数	1名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1. 報 告 (1) 阪神南地区社会教育委員協議会研修会について 2. 議 題 (1) 年間テーマについて 「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のあり方」 (2) 会議録の承認について 3. その他 (1) 第2回阪神北地区社会教育委員協議会研修会について て (2) その他		
会議結果	別紙のとおり		

議長	第7回社会教育委員の会を開会する。
事務局	挨拶
議長	<p>報告</p> <p>(1) 阪神南地区社会教育委員協議会研修会について 副議長より報告</p>
議長	<p>議題に入る。</p> <p>(1) 年間テーマ「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のあり方」について。</p> <p>第1回から第6回までの経緯を振り返り、教育委員と社会教育委員との意見交換会の前に意見をまとめたいと思う。</p> <p>第4回まではテーマを絞った形で行われ、第2回においては、子どもの居場所づくり、家庭教育支援について事務局から説明を受け、第3回は、学校支援地域本部事業について事務局から説明を受け、コーディネーター等の必要性について改めて認識し、どのように機能しているかということについて意見交換を行った。</p> <p>第4回では、社会教育施設において、場づくりの視点から実態について説明を受け議論した。</p> <p>第5回からテーマ「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のありかた」について議論し、第5回にはコーディネーターの大切さ、前回は、学校・地域・家庭それぞれの場面において情報発信の大切さについて、現状の報告並びに意見交換を行い、学校の現状、教育委員会の現状、放課後子どもプランのPRが盛んに行われているとの認識で終わったと思う。</p> <p>今回はテーマについて、まとめていきたいと思う。</p> <p>同時に本日は、個々の社会教育委員が教育長、教育委員に対して意見を述べるができる唯一の場ですので、各委員のご御意見をいただきたいと思う。</p> <p>ほとんどの市民は、自分の子どもが学校を離れた後、学校のこととは、分からないと思う。</p> <p>ただ、スポーツをしている方、子どもと関わりのある方などの中には、十分理解している方や少し理解している方がおられるが、限られているのが現状だと思う。</p> <p>出来るだけ多くの方に知ってもらえたらいいと思う。</p> <p>以前に、40か50歳の市民全員に「お時間ありませんか、子供達のために何かしませんか」とハガキを送っては。</p>
副議長	

<p>議長</p>	<p>との提案したことがある。</p> <p>情報発信はされていますが、私が目にするのはこの場所であり、外で活動している時には、あまり目にしなかったり、あっても気にとめてもらえない場合があるので、発信した情報をどう受信していただくか、考える必要があると思う。</p> <p>以前配布した昨年度の「平成21年度社会教育委員の会「討議報告」」では、「学校の現状」「場を支える人材育成への支援」「地域住民への提案と協力するメリットと課題」「社会教育施設等の活用」というまとめとして出している。</p> <p>市と社会教育委員との連携の仕方は、市によってかなり異なっており、当市は、提言を求められていないので、自主的課題を決めて教育委員会に意見を申すことになる。</p> <p>特に国の学校支援地域本部委託が今年度で終わるということもあり、阪神北地区社会教育委員協議会でも、どのように引き継ぐかと言う危機感を述べられている。</p> <p>県の施策で学校地域連携推進事業を芦屋市立精道小学校がモデル校としてされていますが、いずれ兵庫県下すべての学校で推進されていくことになると思う。</p> <p>学校を拠点として地域の全ての諸団体が集結する形の中で市・学校・コミュニティの核を作ろうとする動きで、学校支援地域本部も含めて地域連携を推進して行こうとする動きです。</p> <p>もう一点が、新しいコミュニティ的な存在であるNPOがあり、行政との連携も含めて時代が急激に動いており、社会教育委員としても勉強していく必要がある。</p>
<p>D 委員</p>	<p>学校地域連携推進事業というには、学校支援地域本部を包括するわけですか。</p>
<p>B 委員</p>	<p>学校運営にも地域の方が関わってくるようで、詳細は分からないが、責任はその団体が負うと思うが、その方向性がいいいのかは分からない。</p>
<p>議長</p>	<p>この件は、まだ確定していない。</p> <p>新しい総合計画は何年度からですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>平成25年度からで、平成23年度から策定準備を始めます。</p>
<p>議長</p>	<p>学校地域連携推進事業が実施される前提で市としても動く必要があると思う。</p>

D 委員	ボランティア的に経営責任がなりたつのかと不安に思う。
F 委員	要するにPTCAをもう一步進めたものですか。
B 委員	PTCAの概念で、学校経営に焦点を当てたものと思う。
議長	川西市も、市民で頑張らないとの発想になったと思う。 青少年育成では、全ての諸団体が中心になり、青少年育成フォーラムが、出来るようになり、市全体で関わり、連携が成功しているひとつの事業ではないかと思う。
E 委員	去年のPTCAフォーラムでは「川西の金太郎」で参加し、今年はロビーに展示をします。 学校の経営に地域の方が入るとするのは、すごいことだと思うが、実際には難しいと思う。
B 委員	経営責任、個人情報の問題等を考えると難しい。
議長	総論的には社会教育の問題として論じられている。 今までの6回の会議でも、具体的に一つ一つ営まれている事業の評価並びに応援を市民一体となって、行政のほうにアドバイス並びに支援やってきていると思う。 学校の連携の部分では経営の責任問題があいまいのままでは校長・教頭の責任論になる。 情報公開には課題はあるが、情報を知っていただくことは大切だと思う。
A 委員	学校支援地域本部のコーディネーターをしているが、学校は、年間行事が決まっており、新しいことを始めるのは難しいし、同時にボランティアの方と上手くいくようにするのは、課題と感じている。
C 委員	学校経営に地域が入ってくるというのは現実感がない。 最終決定をさせてもらえるから責任をとる覚悟があるが、決定は出来ないけれど責任は取らされるでは校長としての魅力はなくなる。 現在も待遇等は、下がっているが使命感でやっている。 子供達のことを考え、地域のことを考え、バランスをとって総合的に判断し、決めたことは責任を取ろうと思う。 学校教育は、主体性が保障されないとだめだと思う。 ただ、今がいいと思っているわけではなく地域の声を取り入れることも考えている。

議長	<p>学校支援のボランティアもがんばっているが、社会教育委員として、学校現場のバックアップ体制作りの必要性を教育委員会に言わなければならない。</p> <p>社会教育委員として、平成25年度に策定される次期総合計画も頭に入れないといけないと思う。</p>
D 委員	<p>学校支援地域本部の流れは、予算がなくなっても続けていく必要があると思う。</p> <p>本日の教育委員との意見交換会では、放課後子どもプランとの関連性も含めて継続の方向で話をしたい。</p> <p>学校支援地域本部の報告書を各学校の先生方に配布したら、提案にもなるし、アイデアを生むきっかけにもなると思う。</p>
議長	<p>学校支援地域本部の報告が出来るようにしたいと思う。</p> <p>意見交換会では、学校支援地域本部の重要性を理解・認識をしていただけるように話したいと思う。</p>
副議長	<p>家庭で親が元気であると家庭が元気になると同じで、学校では、先生が元気であって欲しいと思うし、市民や各種団体がサポートに徹して支援し、問題を見つけた時には、指摘ではなく、提案、疑問符でお伝えできたらと思う。</p> <p>先日の研修会の「人のつながりはご縁で繋がっていくものですね。」という言葉が印象に残っている。</p> <p>人と人とが何か課題を抱えた時に、どちらの意見も間違っていないから、どこで折り合いをつけるか大変である。</p>
B 委員	<p>信頼関係で学校も地域と繋がって行くことは、本当に大事なことだけど難しい。</p> <p>他県では、学校が保護者を訴えているが、それはあってはならないことだと思う。</p> <p>連携を考える時には、それぞれが責任を果たしているかが一番大事と思う。</p> <p>「コミュニティスクール」や「子どもを社会で育てる」などの発想は、「美しい」が本当に上手くいくのか疑問であり、責任の押し付けあいをしているのではないかと思う。</p> <p>子どもが生まれたら最初は家庭が責任を持って育て、次に学校に来たら学校に責任がある。</p> <p>学校は、学校経営の中で地域とつながり、地域は、地域で何が出来ることがないか、ということになってくる。</p> <p>それぞれが責任を持って動いていることが、根本にあると思う。</p> <p>法律では、社会教育は学校教育課程外の教育活動ですが、</p>

	<p>そのような捕らえ方をしたら、学校がバリケードを張ってしまい、地域との繋がりがもてないと思う。</p> <p>常に、教職員の意識を、子どもを社会との繋がりの中で育てて行くという方向性を出せるのかなと考えている。</p> <p>それぞれの責任の下でというのを自覚し、学校は、社会・家庭とも密接につながらなければならないと思う。</p> <p>当校では、地域の方が、わくわくクラブで入っていただいていたたり、逆に地域の催しに参加したりしている。</p> <p>そのためには、複数のコーディネーターが必要である。</p> <p>当校は、わくわくクラブや、学校支援地域本部のコーディネーターを中心に、子どもが大きくなった旧のPTAの方が組織し、活動している。</p> <p>学校から見れば、子どもが卒業した旧のPTAの方をいかに繋げて、組織づくりしていくかだと思し、その方々は地域に繋がっていますので、それが出来てはじめて地域の学校になると思う。</p> <p>同時に学校は、すべきことをしないと、地域の方に、支援してもらえない。</p> <p>そのような連携の仕方が一番良いと思し、それを纏めるのが校長、コーディネーター、PTAの役割と思う。</p> <p>参画協働という言葉が使われ、形式論、建前論であり、責任はあいまいなまま終わっている。</p> <p>地域との連携と言ってもどのような連携なのかはあいまいなままで語られる時もある。</p> <p>学校現場では、現実の問題があり、最後は人ですねといわれたらそれに尽きる。</p> <p>人材育成し、人材発掘し、助け合いながら関わる場面を多くして行く地道な努力しかないと感じています。</p> <p>地域との連携、コーディネーター含めて、実際支援をやっていて、具体的にこれというところありますか。</p>
議長	<p>この仕事は、今までの人脈と経験のそれが全てで、多くのアンテナ張り、情報を集め、つなげることです。</p>
D 委員	<p>学校支援地域本部も継続し、システム化し、組織が変わらないように維持されることが大切だと思う。</p>
議長	<p>E 委員は、コーディネーターみたいなことをやられてどうですか。</p>
E 委員	<p>色々な活動を通じて、行政に人脈は広がりまし、PTAの時も人脈は広がり、現在も学校評議委員をしている。</p>

議長	<p>社会教育委員の会を知っていましたか。</p>
E 委員	<p>インターネットで調べて知り、情報発信の必要性を感じましたし、情報誌で市民に知らせる必要があると思った。</p>
議長	<p>今年度の最初に、学校の情報公開について発言があったがこの会も同じであると思う。</p>
F 委員	<p>先ほど、先生の話があったが、私たちの時代は、先生は憧れの存在で、先生が好きという所から入った。 好きな先生の教える教科は成績も良い。 先生は、憧れの的であり、人間性の素晴らしい人でないと思うが、今はどうなのか。 同時に、学校教育には、自由な裁量があるのか、また地域性というのがあるのかを知りたい。 学校も地域性が必要と思うし、それがあってこそ非常に面白い教育が出来ると思う。</p>
B 委員	<p>新教育課程の本質についておられる。 教科の内容は学習指導要領で決められているが、その中に「地域の実態に即して」というのがある。 例えば、地理での「街を歩いて見ましょう」や中学校では、地域に根ざした活動への参加など、枠組みの中の教材や地域の方に講師を依頼するなど、自由な部分はある。 新教育課程の中で「地域の実態に即して」というのが何回も出てきており、地域との接点を求めての取捨選択はできるようになっている。</p>
F 委員	<p>時代的に、義務と権利を履き違えている父兄が多く、そういう人が学校に好きなことを言う人が多く難しいと思う。 押付けはボランティアではなく、その辺が難しいと思う。 同時に、県からの指示をそのまま学校に流すのではなく、咀嚼し、川西に合うようにしてほしい。</p>
議長	<p>そのあたりも教育委員に聞かれたらいいと思う。 川西の教育はこういう形でやっていくと言われると思う。 具体的には、学校支援地域本部のボランティアの活用について、学校に対しても地域社会に対しても、教育委員会がどのように支援していこうとしているか。 コーディネーターに対する国からの予算が、今年度で終わりましたから終わりではなく、今後もコーディネーターに対する配慮を念押しする必要があると思う。 ボランティアに対する支援的な経費を将来どうしようとし</p>

副議長	<p>ているのか、校長の責任の所在の問題や、子どもの教育はお金でははかれないということ、ハードの費用だけでなく、ソフトの費用面を事務局と一緒に訴えていかなければと思う。</p> <p>先日、成人式に行きましたが、川西出身の若者が大活躍している、川西の若者も自信と誇りを持ってほしいと思う。</p> <p>先生たちには、活躍している子ども達の地盤作りしていたと、誇りを持ってほしいと思う。</p>
議長	<p>行政なども若者の活動を支援してきた経緯もあり、そのことを市民にも、若者にも知ってもらいたいと思う。</p> <p>次回が最終になるので、会議の途中経過として、教育委員会に、報告したいと思ので、原案の作成を一任してほしい。</p> <p>(全員了承)</p> <p>社会教育委員は、独立した委員でもあるので、教育委員会に述べたい意見などをまとめて、2月18日まで事務局まで提出をいただきたい。</p>
事務局	<p>(2) 第6回議事録について。 (全員承認)</p> <p>事務局から事務連絡をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回阪神北地区社会教育委員協議会研修会の出欠確認 ・次回の社会教育委員の会の説明
議長	<p>以上で閉会する。</p>